

ガーナの子どもと何して遊ぶ？ — トロトロごっこだるまさんが転んだ —

サバンナの熱い太陽

私は西アフリカのガーナの村で、住み込みで調査をしている。調査村のひとつは、ガーナ北部アップパーウェスト州ロウラの町の近く、農耕民のダガーレという民族が暮らしている村だ。

この村は湿潤サバンナに位置している。3月半ばから10月半ばまでの7カ月間が雨季、10月半ばから1月までが比較的涼しい乾季、2月から3月までが暑い乾季となる。サバンナの日差しはとて強く、とくに雨季の日中は気温も湿度も高い。冷房のない村では、汗がとめどなく流れる。村の人たちは涼しい朝のうちに畑に向かい、午前中いっぱい農作業をして、日が高くなる正午過ぎに家に帰る。昼下りの暑さから逃れ、涼しい木陰で心地の良い風を受けて休憩する(写真①)。

2014年から2015年にかけて、私は2度この村に滞在し調査をおこなった。村にいるあいだ、私は村人の家を回って世帯調査をしたり、畑に行き村人の農作業の様子を観察したり、女性のもとで料理について調査したりする。調査は村の人びとに手伝ってもらっているのだから、村に暮らしているあいだは私も村人と同じリズムで

生活をする。午後は村人とおしゃべりをしながら休憩したり、家で昼寝や読書をしたりして、ゆっくりと過ごす。

小学校には、昼過ぎに長めの昼食休憩がある。子どもたちは昼食を食べるために帰宅して、15時くらいに学校に戻って午後の授業を受ける。私のホストファミリーの子どもたちはサバンナの暑さをもとせず、お昼過ぎになると追いかけてこをしながら家に帰ってくる。荷物を自分の部屋に放り込むと、いつもその足で私の部屋を訪ねてくる。毎日ではないが、この時間が私と子どもたちが一緒に遊ぶ時間になる。サバンナの昼下がり、子どもたちはサバンナの熱い太陽の下に私を引っ張り出す。

ガーナの子どもの昼下がり

ガーナではサッカーが人気だ。レストランやテレビのある家に近所の人びとが集まって、みんなでサッカー観戦をする。その影響もあって、子どもたちは小さな子から大きな子までサッカーが大好きだ。サッカーボールは高級でなかなか手に入らないが、道端で拾ったビニール袋を幾重にも重ねてボールをつくり、ゴールの代わりに地面に線を引っ張ってサッカーをする。私と遊ぶときも手づくりのボールを使って、みんなでサッカーをして遊ぶことが多い。

2～4才の小さな子どもたちも、お兄ちゃんお姉ちゃんに混ぜてもらって一緒にサッカーをする。しかし、体が接触することの多いサッカーでは、年上の子に体の大きさでも力でも負けてしまう。小さな子はほかの子にぶつかって転び、泣いてしまうことも日常茶飯事。足の速さでも到底かなわない。小さな子たちは、最初是一緒になってボールを追いかけて楽しんでいるのだが、そのうち飽きて違う遊びを始める。

子どもたちは、体を動かす遊びだけでなく、トランプや石を使ったゲームでも遊ぶ。ここでも小さな子どもたちは、お兄ちゃんお姉ちゃんと一緒に遊ぶのは難しく、そのうち姿を消してしまう(写真②)。

ある日の昼下がり。私と子どもたちとでサッカーをしていると、小さな子どもたちはサッカーに飽きてどこかに行ってしまった。そのうち私も強い日差しの下での激しい運動に疲れてしま



写真① トウモロコシの収穫作業を終え木陰で休憩する村の人びと

い、木陰に逃げ込んだ。最初は木陰から子どもたちがサッカーをしている様子を眺めていたのだが、ふと小さな子どもたちは何をしているのか気になって、木陰を離れて小さな子どもたちを探した。しばらく歩くと「ピッピー」「ブーン」という声が聞こえてきた。声のする方に行ってみると、小さな子どもたちは家の横に置かれた大きな木材にまたがって遊んでいる。先頭に座っている子は「ブーン、ピッピー！」と言って木の

枝を両手に車を運転しているような仕草をし、前から2番目に座っている子は「アクラ！アクラ！」と叫んでいる。アクラとはガーナの首都だ。これはもしやと思い「メイトさん、トロトロですか？どこ行きですか？」と聞いてみた。すると前から2番目に座っている子が「そうだよ！アクラ行きだよ！」と教えてくれた。

ガーナの街中では、たくさんのバンが走っていて、スライド式のドアから人が身を乗り出し



写真②木陰でトランプを楽しむ子どもたち

「アクラ！アクラ！」と行き先を叫ぶ。これは乗り合いタクシーで、現地ではトロトロと呼ばれている。行き先を叫んでいる人はメイトと呼ばれ、おもに客引きや乗車料金の回収をおこなう。子どもたちの様子から、すぐに『トロトロごっこ』をしていることがわかった。子どもたちは、一日に数回ロウラの町を通過する長距離トロトロを見ているのだろう。まだ見ぬアクラに行ってみたいという願いをこめて、首都アクラに行き先に決めたようだ。私は、メイト役の子に「アクラまでお願いします」と言って葉っぱのお金を渡し、一番後ろに座った(写真③)。

その後もたびたび子どもたちの遊びを観察していたのだが、5歳以上の子たちはサッカーやカードゲームをしていることが多く、それより年下の小さな子たちは、トロトロごっこやおままごと、お店屋さんごっこ、太鼓を使った学校のマーチングごっこなどのごっこ遊びをしていることが多いことが分かった。

みんなで日本の遊びにチャレンジ

まだダガーレの言葉が十分に話せない私は、学校で英語を教わっている子どもたちと遊ぶことが必然的に多くなってしまう。まだ英語がわからない小さな子どもたちも私と遊びたそうにしているのだが、いつも遊んでもらえず姿を消して

しまう。この様子を見て私は小さな子どもたちも一緒に遊べないかと考えるようになった。そして、せっかくだし日本の遊びをみんなでやってみようと考えた。

まず、最初にチャレンジしてみたのは『折り紙』。5歳以上の子は実際に折り紙に挑戦し、小さな子はお兄ちゃんお姉ちゃんにつくってもらった折り紙をもらう。数枚の紙から花や動物ができることに驚き、子どもたちはみんな目をキラキラさせて集まってくる。5歳以上の子は私の指示に従って折り紙を折り、小さな子は横でその完成を待つ。折り紙を折る子たちは、複雑な作業をやりこなすことに喜びを感じ、小さな子はできた作品をもらえることに目を輝かせる。男の子はやっぱり紙飛行機や車、女の子は花が好きなようだ。

次は体を動かす遊びを、と思い教えたのが『だるまさんが転んだ』。ガーナの子どもたちがやっていないような遊びを選んだ結果、『だるまさんが転んだ』がいいのではないかと考えた。小さな子もいるのでルールは簡略化させた。鬼にタッチしたらすぐに走って鬼から離れ、鬼がストップと言ったら止まり、鬼が太股で3歩移動するあいだにタッチされた子が次の鬼、とした。

まずは、みんなで「だるまさんが転んだ！」を言えるように練習した。すると子どもたちはすんなり「だるまさんが転んだ」と言えるようにな

り、ルールについてもすぐに飲み込んだ。そして、とても上手に遊び始めた。小さい子たちもお兄ちゃんお姉ちゃんに教えてもらいながら一緒に遊ぶ。一度やり始めると小一時間終わらない。時には年上の子が失敗して小さな鬼にタッチされ、次の鬼をやることも。小さい子もふくめ、みんなで日本の遊びを楽しんでくれているようだった(写真④)。

今日はみんなで何して遊ぶ？

日本と違い、アフリカの農村ではボードゲームもテレビゲームもない。物がほとんどないなかで、子どもたちはいろいろな遊びを考え、新しい遊びにチャレンジしていく。空き缶の底をくり抜き、家にあった古いビニール袋を張って太鼓をつくったり、葉っぱや木の実を使っておまごをしたり。子どもはみんな楽しむことにとて



写真③トトロゴっこを楽しむ子どもたち
先頭に座っている子が運転手役、前から2番目の子はメイト役、一番後ろの子はお客さん役

も真剣で、何もないところから遊びを生み出してしまふ。私も幼い頃はそうやって遊んでいたはずなのだが、子どもたちが次々に遊びを見つけてくるので、いつも驚いてしまふ。

子どもたちはいつでも、新しく楽しい刺激的な遊びを探している。子どもたちは新しい遊びを期待して、私に「今日はみんなで何して遊ぶ?」と聞いてくる。その期待に応えようと、私は日本の遊びを教えたり、新しい遊びを創作

したりする。新しい遊びを提案して、子どもたちの驚いた顔や喜ぶ顔を見るのはじつに楽しい。次に村に行くときは、ケンケンでも教えてあげようかな。それとも竹トンボで驚かせちゃおうかな。子どもたちのパッと輝く笑顔を思い浮かべると、次の渡航に胸が躍る。

桐越仁美



写真④だるまさんが転んだに夢中になる子どもたち